



Yonago East Weekly

●創立/1968年4月24日 ●事務所/米子市西福原1-1-55 ホテルサンルート米子 Tel (0859) 32 - 5531
 ●例会日/水曜日12:30~13:30 ●例会場/ホテルサンルート米子市西福原1-1-55 Tel (0859) 33-0911
 ●会長/尾沢三夫 ●幹事/永見吉平 ●会報/伊藤慎哉

会員数79名

今週のお祝い

本人誕生日: 3日 小椋理佳君
 11日 長谷川(進)君 川端恵美子君
 18日 岩崎浩君
 19日 安達充君
 24日 小田浩一君

会長挨拶

本日は、卓話でお越し頂きました防衛省自衛隊鳥取地方協力本部米子地域事務所 所長高橋宏様にお話しを頂きます。ご紹介いたします。

会長の挨拶として地域とロータリー会員ということの話をさせていただきます。先月は敬老の日を中心に色々な行事がありました。先月から今月に掛けて小中学校の運動会、校区民運動会と地域の行事が多くありました。

ロータリー会員というのは、年当初にも言いましたが家庭に帰れば一家の主人その家庭とは、どこに存在するかとそれぞれの自治会又は公民館そういったかたちの中で皆様は重要なポジションに居られます。公民館活動に対して地域の方々は力を入れて自らの時間を沢山つぎ込み、地域の方に喜んでいただく行事をやっておられます。果たして私たちが高い理想を掲げながら地域の中で現実に出てくるのであろうかと考えたりします。行事の中で今の小中学校の運動会は私たちの時と

違い、競技が色々なアイデアを出した運動会となっています。以前は子ども達が競技の中で差をつけることはしてはならないと学校の方針になっていました。低学年の場合は速い子が遅い子を待って手をつないでゴールすると言う話がありました。果たしてそれが正しいか正しくないは分かりません。しかしながら今の子ども達の競技は差があろうが一生懸命にゴールをめざして走ってる姿が清々しく感じました。是非、この時期にしかない行事に参加をして感じて頂きたいと思います。

それと震災から7ヶ月が経ちます。今でも行方不明の方が数千人と思います。その震災での活動の実態を卓話としてお話しを頂き、我々が出来ることは何かを皆様と共に考えたいと思います。今週にはそのことをテーマとした作文コンテストの表彰式、大山では一斉清掃があります。是非、どちらかに参加して頂きたいと思います。よろしくお祈りします。

今後の行事予定

10/21 地区大会記念懇親チャリティゴルフ	11/11~13 グレン&千杯第8回ロータリー
10/23 地区大会 (倉吉未来中心)	選抜野球大会 (伊勢崎市)
10/26 クラブ協議会	11/14 第2グループ会長幹事会



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

Reach within to embrace humanity

こころの中を見つめよう 博愛をひろめるために

「震災派遣」

防衛省

自衛隊鳥取地方協力本部

所長 高橋宏之 氏



米子地域事務所 所長高橋宏之と申します。出身は新潟県です。家族は妻と長男がいます。まずは紹介をさせていただきます。先週からイオン日吉津西館において東日本大震災パネル展示を行い放射能を防護するタイベックススーツを展示しています。なかなか現物を見ることがないと言うことで陸上自衛隊から借りてまいりました。

そして進学系コースの募集を行ってまして防衛学校と言うのは例年1名ぐらしか合格しないのですが昨年はこの地域で6名が合格しました。米子の事務所から3名出ました。実は私、航空学生から自衛隊に入りました関係で山陰各地で教育活動をしています。自衛隊の事務所は今までは自衛官の募集ばかりでしたが今では当時の石破大臣の時に全国に事務所があるのであれば何か活用が出来ないかと言うことで国民保護、災害対策のための連絡調達等をやります。広報イベント(航空機、戦車の体験搭乗・音楽コンサート等)を広く紹介して、自衛隊の活動を理解して頂くために活動しています。

東日本大震災等における自衛隊の活動について説明をさせていただきます。水の大災害と言われてはいますが大きな地震が頻発しています。3月11日14時すぎに地震が起きた訳ですが強い所で三陸沖でM9.0、最大震度7と言う地震でした。今回についてはM9.0と言う大地震と歴史上ないような大津波と原発と3重の事故が重なった大惨事なり陸、海、航と初めて共に活動を行うJTFと新聞等で報道されました。史上最大規模の10万人の自衛官が排出されています。東北地方の海から空から陸から自衛隊が集まり、陸上自衛隊はそれぞれの地域に侵出し海上自衛隊は海から物資を輸送や搜索、航空自衛隊はC-1やC130等で全国の基地から毎日100tの物資を輸送していました。

今回は19,000人の方が助かっています。それは震災後、すぐに動いたことが第一です。津波の引き波で多くの方が海上に投げ出されました。それを船や飛行機で搜索してお互いに協力することで2日で3,200人3,4日で19,200人を自衛隊だけで助けたと言うことです。大川小学校の話ですが児童の3分の2の方が死亡、行方不明になった学校です。108名中74名、先生は13名中、10名の方が死亡、行方不明になったと言う状態です。自衛官が搜索をしていると毎日わが子を探す人々の姿があったそうです。妊婦やランドセルを背負ったままの遺体があり、隊員としても涙が止まらなかったそうです。遺体安置所に運ばれる時にはみんなで敬礼をして送ったそうです。原発との戦いです。自衛隊の消防車、ヘリコプターで放水活動を行っていました。

米国の空母ロナウド・レーガンも日本の護衛艦と共に活動を行いました。孤立した島等に燃料を輸送していました。仙台空港についても半年はかかると言われていましたが米軍の努力により1ヶ月未満で復旧しました。今、国難の日本周辺で起きていること現在、日本は震災復興中ですが、ロシアや中国が日本近海や日本領空に接する空域における活発な行動が目立っています。

最後になりましたが今回の震災対応を通して、我々は多くの教訓を得ました。この貴重な教訓は、災害対応のみならず、不測事態・有事に活かしていかなければならないと考えています。今後も防衛省の地域事務所は、最寄りの防衛省機関として、皆様の安心・安全に全力を尽くしてまいります。

次回プログラム

10/26 「指画の世界 龍を描く女」(仮称) 指絵画家 浜田珠鳳 氏